

# もうキツティングは不要！ 法人 iPhone/iPad 導入の 切り札「DEP」とは

アステリア株式会社

2017年12月



# Handbook

# はじめに

ビジネスシーンで iPhone や iPad など iOS デバイスを導入する際に頭を悩ませるのが端末の設定と運用管理です。iPhone も iPad もコンシューマー向け端末でありビジネスに特化した製品ではありませんので、購入した端末に対し、セキュリティを高めるための機能制限、業務で使用するネットワーク設定やアプリのインストールなど、仕事で使える状態にしてからユーザーに配布する必要があります。

そのプロセスをキittingといひ、大変手間がかかる作業のため、特に大量台数の端末を一括で納入する際などは、1 台あたり数千円を外部業者に払い委託するケースが殆どです。キittingは端末のライフサイクルにおいて必ずしも初回だけに発生する作業ではなく、故障した端末や利用者を入れ替えた端末など、端末が廃棄されるまで定常的に続いていく面倒な業務です。

セキュリティの強化やアプリの配布を便利にするツールとして MDM (Mobile Device Management) や Apple Configurator、VPP (Volume Purchase Program) といったサービスも使われてきましたが、近年、キittingの手間などをより簡易にするサービスとして DEP (Device Enrollment Program) が登場しています。

DEP は、iOS 端末に対する機能制限、セキュリティ設定などを管理者やユーザーの手を煩わせることなく端末のアクティベーション時に自動で設定できるツールで、従来のキittingが不要になるほど便利なサービスと謳われています。

DEP という言葉は聞いたことがあっても、DEP とは何か、どのように登録してどのように利用するのか、DEP でどの部分がどれだけ効率化されるのかよく分からないという方も多いことでしょう。本資料では、DEP とそれを取り巻く環境の説明、DEP のメリットや業務フロー、注意点などを紹介していきます。

## 1. DEPとは何か、そのメリットとは？

### DEPとは

DEP とは Device Enrollment Program の略で、Apple 社が提供する iOS 端末の導入と配布を簡便化するためのサービスプログラムです。DEP の概要を簡潔に表すと、「デバイスと所有企業の情報を紐付け、それを MDM に連携するサービス」です。対象は法人と教育機関に限られ、2011 年以降に販売された Mac、iOS デバイス、Apple TV の配布に対応できますが、ほとんどの企業が iPhone または iPad の導入において利用していると思われます。また、DEP 自体に利用料はかからず無償で利用できます。



DEP の日本国内での提供が開始されたのは 2014 年の 11 月でしたが、実質、携帯電話販売会社や各種の MDM 製品が DEP への対応を開始したのは 2015 年に入ってからで、比較的新しいサービスです。

しかし、現在ではその便利さゆえ、企業の iPhone/iPad 導入におけるトレンドとなっている傾向が見受けられます。

企業が DEP を利用して端末を配布するには、まず Apple 社公式サイトで法人として Device Enrollment Program に登録しなければなりません。さらに DEP は端末を MDM 管理下に配置するサービスなので、対応する MDM 製品の導入が必ず必要です。そして iPhone や iPad など DEP を適用する端末は、Apple 社または DEP に参加している取扱い事業者から購入したものでなければいけません。以上 3 点が DEP を利用するための前提条件です。(DEP 設定手順については後の第 4 章で説明します)

## DEP の特徴とメリット

DEP の一番のメリットは、キッティング（端末設定）プロセスがワイヤレスかつ自動化されるということです。次章で詳述しますが、DEP を使えば、iPhone や iPad をアクティベーションするだけで MDM と連動し、アカウント設定やセキュリティ設定、アプリのインストールといったプロセスをワイヤレスで自動実行させることが可能になります。iOS 端末を学校や企業が導入しようとする際の作業での端末設定やキッティング作業は DEP を利用することで簡略化され、導入に伴う作業負荷を大幅に軽減することができます。

これまでは、一般の MDM で端末を管理下に置くにしても Apple Configurator ※<sup>1</sup> を使って iOS 端末をケーブルで接続し、1 台ずつ個別に設定する必要がありました。

DEP を利用すれば設定用の Mac や Apple Configurator が不要となり、端末を手元に集める作業もなく、キッティング作業の効率が大幅に改善されます。それどころかキッティング自体を省略し、購入した端末をユーザーにそのまま配布することも可能です。その理由は、電源を入れて端末をアクティベーションするだけで、MDM と自動で連携して設定が確実に適用されるからです。

DEP を使わない場合、MDM は端末に手動設定が必要で、設定ミスや設定漏れの可能性もあります。対して DEP は端末がどこにあらうと電波さえ届けば MDM と強制連動するシステムのため、MDM 登録漏れを確実に防ぐことができます。MDM の構成プロファイルを利用者が削除できてしまうという問題も解決され、デバイスが MDM 管理下から外れるリスクがなくなりました。

キッティングの時短・効率化だけなら MDM や Apple Configurator でもある程度実現できますが、DEP は単にそれだけでなく、端末を管理者の手元に回収しなくても設定を確実に行き渡らせることができ、端末運用における管理レベルが飛躍的に向上します。

---

※ 1 Apple Configurator……Apple Configurator は複数台の iPhone/iPad に対し一括で機能設定を適用できる Apple 社純正の iOS デバイス管理ツールです。無償で利用でき、キッティングに活用できる便利なツールですが、端末を Mac に USB ケーブルで接続しないと使えないというデメリットがあります。2017 年 12 月現在、最新バージョンは 2.5 となっています。詳細は、[過去記事](#)をご参考ください。

## まとめ:DEPのメリット

- ・ リモートで、かつ端末の初期アクティベーションのみで、キッティングが完結
- ・ MDM プロファイルを端末に強制適用
- ・ MDM プロファイルを削除できない

従来、管理部門・外部業者に委託して行っていたキッティングプロセスが、ユーザーの手元でも行え、且つ堅牢な端末管理を実現

## 2. DEP・MDM・VPP (Volume Purchase Program) の違い

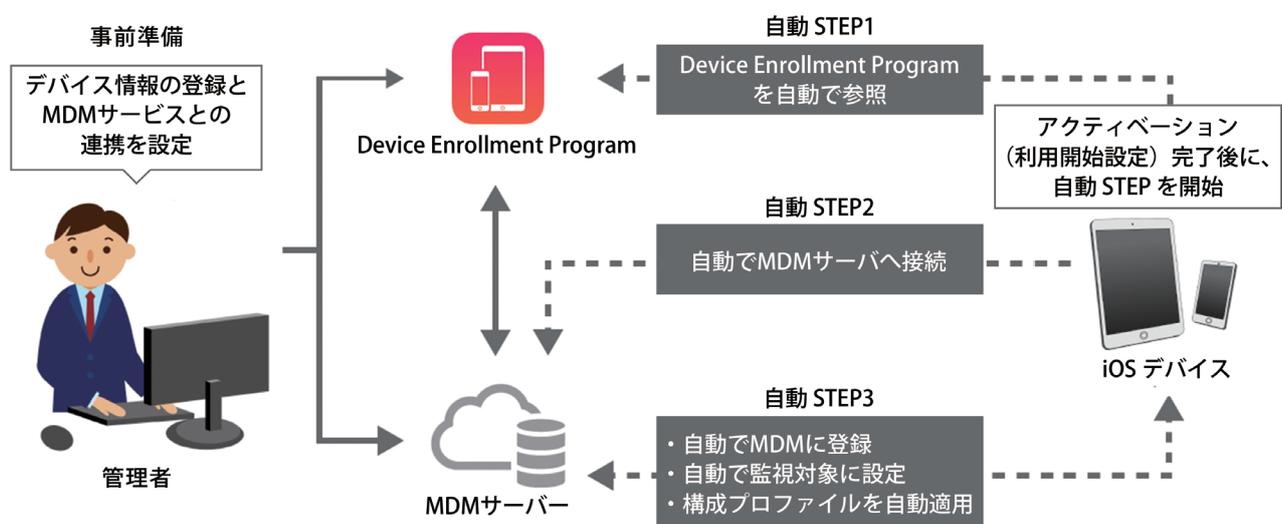
法人の iOS デバイスの運用管理ツールとして、「MDM」や「VPP」といったサービスもありますが、それらは DEP と何が違い、DEP とどのような関係にあるのでしょうか？それぞれの違いや特徴をみていきましょう。

### DEP

DEP の特徴は前述した通り、MDM と併用することが前提のサービスであり、DEP に対応する MDM を契約することが必要になります。

DEP 自体は、何か端末設定やアプリ配信を実行するようなツールではありません。DEP に登録された端末がアクティベーション時に、その企業の DEP 情報を参照し、紐付いた MDM サービスに自動アクセスする仕組みです。

iPhone に機能制限を実装する、ボリュームライセンスで購入したアプリを iPad に配信する、といった機能は MDM の仕事になります。DEP はあくまでも、デバイスと企業情報、その企業が契約した MDM を結び付けてくれるサービスと理解しておいてください。



図：DEP と MDM の関連図

## MDM

MDM (Mobile Device Management) とは法人企業のモバイル端末管理サービスの総称で、登録したデバイスに対し遠隔から各種デバイス設定・機能制限の適用、アプリケーションの配布などを自動的に実行することができるほか、紛失時の遠隔ロック・初期化、端末ログの収集・表示などの管理機能もあります。

遠隔から各種設定を複数端末に同時適用できるので、MDM もキッティング作業を非常に効率化してくれるサービスですが、MDM に端末を自動で登録することができないという点がネックです。端末が MDM の管理下に入ってしまうと各種ポリシーやアプリケーションの配布・配信がリモートで実行可能ですが、そのための準備として、手動で一台ずつ MDM プロファイルのインストールや認証コードを用いたアクティベーション作業が必要になる場合がほとんどです。(このプロセスは MDM 製品によって異なります)

また、MDM を利用して iOS デバイスを管理する際のもう一つの欠点として、MDM プロファイル自体、ユーザーの手で削除してしまうことが可能であり、iOS の仕様でそれを制限することができないという点があげられます。MDM プロファイルが削除されたからといって、MDM によって適用された機能制限やアプリが消えてしまうわけではありませんが、MDM 管理下から外れてしまうことで端末のリモート管理ができなくなるため、端末紛失時の端末情報削除などセキュリティ面やコンプライアンス面で問題が発生します。MDM プロファイルが削除されると MDM サーバーに通知を発信する機能を持つ MDM 製品もありますが、管理者が気付いても、結局その端末に対して再キッティングが必要になるので、端末を手元に回収し再設定する手間や工数がかかってしまいます。これらの欠点を解決したのが DEP というわけです。



## VPP



VPP (Volume Purchase Program) とは Apple 社が企業や教育機関など法人向けに提供しているサービスで、組織としてアプリを購入できるストアのことになります。法人端末導入の際に大きな障害になっていた「Apple ID の取得」をまとめて一括で行い、導入に掛かる時間を大幅に短縮するものです。

\* VPP について詳細は[過去記事を参考](#)にしてください。

VPP はアプリを企業で一括購入し、個々の端末に Apple ID 不要でインストールすることを可能にした画期的なプログラムで、VPP を使用するのとしないのとではキッティングに費やす時間と手間が大違いです。

VPP 以前では端末 1 台毎に Apple ID を取得・設定し、アプリをダウンロード・インストールするたびにそのパスワード入力が求められていましたが、VPP で購入済みのアプリを MDM や Apple Configurator で配信することで、アプリの自動サイレントインストールが実現しました。

	提供元	費用	特徴
DEP	Apple	0円	デバイスと企業情報とMDMを結び付けるサービス
MDM	サードパーティー	さまざま	ワイヤレスでモバイル端末を設定・管理するシステム
VPP	Apple	0円 (ただし、有料アプリの購入時は別途費用が発生)	企業がアプリを一括購入し、各端末でApple IDを使わずにアプリを配布できるサービス

表：DEP・MDM・VPPのまとめ

### 3. DEPによりキittingはどれだけ効率化されるのか？

#### 一般的なiOSデバイスのキitting項目

続いて、DEPを利用することによってデバイス1台あたりのキitting作業がどれだけ簡略化されるのかを具体的に検証していきましょう。

iPhone/iPadに設定すべき項目は無数にあり、どこまでキittingするかは各企業によって千差万別ですが、箱から出したばかりのアクティベーションされていない端末を会社のセキュリティポリシーや運用ルールに沿った設定にして、ユーザーがすぐに使えるようにするまでの基本的な作業ステップはおおむね以下のようになります。



1	セットアップアシスタント	電源起動後、ホーム画面が使用できるようになるまでの設定 言語、国または地域、キーボード、位置情報サービス、Touch ID、パスコード、Siri、診断など
2	iOS 設定	iOS「設定」内の項目に対する設定、機能制限 iCloud (iPhone を探す)、Wi-Fi、Bluetooth、通知センター、コントロールセンター、名前など
3	構成プロファイル設定	パスコード設定、モバイルデータ通信設定等、iOS 構成プロファイルのペイロード設定の適用
4	Apple ID 取得、設定	Apple からアカウントを取得し、端末に設定する
5	アプリケーションのインストール	業務で使用するアプリのインストール
6	MDM 設定	MDM プロファイルのインストール、アクティベート

表：iOS 端末キittingのフロー例

\*前提として、MDM は契約済みであり、各種設定プロファイルの構成は済んでいるものとします。また SIM カードを端末に入れて回線を開通するまでのプロセスも含まれません。キャリアの回線網を通してインターネットに接続可能な状態で納品された端末としています。また、端末本体へのフィルム貼り付けやシリアル番号の台帳登録といった庶務作業もキittingには含まれますが、本資料の主旨に合いませんので割愛します。

本章では筆者が実機 (iPad) をセットアップしてみた結果に基づいて、それぞれの作業ステップにおよそどのくらいの時間がかかるかを検証していきます。

## 1. セットアップアシスタント

iPhone や iPad を購入したことのある人なら誰でも必ず経験したことがある作業です。最初の「ようこそ」と表示される画面からの一連の初期設定プロセスで、こればかりは、どんなにキittingツールが便利になっても避けて通ることはできません。

言語の選択

国または地域を選択

キーボードを選択

Wi-Fi ネットワークを選択

\* Touch ID

\* パスコードを作成

\* App とデータ

\* Apple ID

\* 利用規約

\* エクスプレス設定

(iPad を探す、位置情報サービス、使用状況の送信などをまとめて設定可能)

\* App 解析

\* OS 固有の操作説明 (Dock アクセス、ホームボタン感度など)

合計 12 項目  
設定: 約 3 分

・ \*=DEP で省略可能な項目

図: iOS 11.2 でのセットアップアシスタントの項目

上記の項目に対し、できる限り「後で設定」「キャンセル」などで回避する選択をした場合でも約3分かかりました。もし長い Wi-Fi のパスワードを入れたり、Apple ID を設定したりすると更に時間がかかるでしょう。

これだけの項目をクリアしないとホーム画面に辿り着けないわけですが、DEPを使用すると、このうち半数以上の項目をスキップすることができます。環境差はありますが、2分程度に短縮されるでしょう。このセットアップアシスタントが完了すると DEP の適用処理が実行され組織に紐付いた MDM が自動設定されます。(なお Apple Configurator を使用しても、いくつかの項目をスキップできます。)

## 2. iOS設定、3. 構成プロファイル設定

2のiOS「設定」と3の「構成プロファイル設定」は6の「MDM設定」と項目が重複し、省略できる場合がほとんどです。どういうことかということ、端末本体の「設定」画面を操作して手作業で入力できる各種設定や機能制限のほとんどが、構成プロファイルで設定できる項目であり、MDM製品の管理ポリシーは基本的に構成プロファイルを踏襲しているので、結果的にMDM設定を適用さえすれば、別途iOSの設定と構成プロファイルを個別適用する必要なくなるというわけです(※)。

本稿では、以下の簡単な設定を実装しました。

iOS 設定	<ul style="list-style-type: none"><li>・機能制限を3項目設定 (Facetime オフ、AirDrop オフ、アカウントの変更を許可しない)</li><li>・iCloud 設定で、iPhone を探すを ON、他の項目はすべて OFF</li><li>・VPN プロファイルを設定 (IPSec)</li><li>・デバイス名にシリアル番号を設定</li></ul>
構成プロファイル	<ul style="list-style-type: none"><li>・1 個のペイロード (パスコードポリシー)</li></ul>

上記項目を何のツールも使わず、端末に手動で一つ一つ設定したときの所要時間は15分程度で、文字列を打ち込む項目が多いVPNや、デバイス名の設定に特に時間がかかりました。

## 4. Apple ID登録

アプリをダウンロード、インストールするために必要なApple IDの取得作業で、名前、メールアドレス、パスワード、秘密の質問などを登録しなければならないので、大変面倒なプロセスです。メールアドレスの確認認証もありますし、手馴れた作業者が進めても最低10分程度はかかる作業といつてよいでしょう。

前述した通り、この作業はVPPを利用すれば端末台数分のApple ID取得の必要がなくなり、まるまる省略可能です。単にDEPに登録しただけではApple IDなしでアプリをインストールできるようにはなりませんので注意してください。

※……必ずしも構成プロファイルやMDMが、管理者の設定したい要求を100%カバーするとは限りません。端末のiOSのバージョンによっても設定項目は異なりますし、MDMは各製品・バージョンによって実装できる機能に違いがある場合があるので注意が必要です。MDMで自動適用できない一部の機能については個々の端末で設定しないといけない場合もあります。

## 5.アプリのインストール

ユーザーが業務で使用するアプリをインストールする行程です。一般的にアプリは App ストアという Apple 社のアプリ配信ストアから入手しますが、MDM を導入している場合は、多くの MDM 製品がアプリをラップ化し管理配信できる機能を備えているので、その仕組みを利用してインストールすることがほとんどです。

具体的には、インストール可能なアプリを一旦 MDM のポータル上に配信しておき、ユーザーが使用するアプリを適宜ポータルからダウンロードする方法か、MDM がアプリを端末に自動インストールする方法の 2 つがあります。全員が必ず使用するアプリは自動インストールし、重要性が低いアプリはポータル上に配信しておくという併用パターンが効率的でしょう。

アプリのダウンロード時には Apple ID のアカウントとパスワードが求められますが、VPP を利用すれば、サイレントインストールが可能になります。

## 6.MDM設定

MDM サーバと同期し、その端末に対して MDM の設定を適用する作業で、よくアクティベーションという言い方をします。

アクティベーションするためには、以下の 2 ステップの作業が必要なことが一般的です。(各製品によって仕様は異なります)

まずデバイスが MDM サーバと通信し、MDM とデバイスの接続を確立します。具体的には、デバイスに MDM プロファイルと呼ばれるエージェントファイルをインストールすることです。デバイスの MDM への登録方法は様々ですが、主な方法はブラウザから所定の MDM サーバにアクセスするか、専用のアプリから MDM サーバと通信して行います。端末を PC に USB で接続し Apple Configurator を経由して MDM へ登録することもできます。

デバイスが MDM 上に登録されたら、続いて管理者が MDM サーバから当該デバイスに対して設定の適用命令を実行します。逆にデバイスから MDM に向けて命令をリクエストすることもできます。これで端末はアクティベーションされ MDM の管理下に入り、必要な設定やアプリが自動的に端末に適用されることとなるのです。

この設定作業は MDM 製品によって異なりますが、MDM 管理ツールにアクセスする手間などを加味すると、およそ 15 分程度といったところでしょうか。

## ■ツール使用によるキッティング作業の省略

それでは、MDM や DEP といったサービス、ツールが 1～6 のキッティング項目をどのくらい効率化してくれるのかを見ていきましょう。まず、各サービス、ツールが省略できる箇所を表にまとめてみました。(DEP は MDM を必ず使用するので欄を繋げています)

		MDM = 遠隔適用可	DEP = 遠隔適用可	Apple Configurator = 遠隔適用不可	VPP
1	セットアップ アシスタント	-	一部項目省略可	一部項目省略可	-
2	iOS 設定	サイレント自動適用可		ワンタッチ適用可	-
3	構成プロファイル設定	サイレント自動適用可		ワンタッチ適用可	-
4	Apple ID 取得、設定	-	-	-	省略可
5	アプリケーションの インストール	条件付きで自動適用可		-	サイレント 自動適用可
6	MDM 設定	-	サイレント 自動適用可	-	-

表：各ツールで省略可能なキッティング項目

ワンタッチ適用可……それぞれの細かい項目を設定する必要がなく、システムにより一括で設定を適用することができますが（※ Apple Configurator が提供している機能に限る）、手動操作が必要です。

サイレント自動適用可……ダイアログがあらわれず、ユーザーの応答不要でバックグラウンドにて処理が自動的に実行されます（※各 MDM 製品が提供している機能に限る）。ただしネットワーク状況によって、処理開始までのタイムラグは発生します。

条件付きで自動適用可……端末が App Store に適切な Apple ID でログイン済みの場合に限り、アプリが自動でインストールされますが、ダイアログが出て Apple ID のパスワードの確認を求められることがあります。

表を見ると、MDM + Apple Configurator + VPP の組み合わせでも、かなりの工数を省略することは可能です。しかし、Apple Configurator は Mac と端末を USB ケーブルで接続しないと使用できないので、遠隔操作でのキッティングはできず、端末を回収してのキッティング作業になり配送時間がかかることが予想されます。

VPP は Apple ID の個別取得が不要で、端末単位にアプリの配布が可能です。VPP を使わない限り、Apple ID の取得作業が必要となり、アプリのインストールのために Apple ID アカウントで認証が必要となります。

MDM は端末の各種設定をリモートから自動適用できますが、DEP を使用しないと、MDM プロファイルを端末に適用しアクティベーションするために、手動設定作業が必要となります。

## ■DEP+VPPの組み合わせがキッティング時間を一番短縮させる

続いて、各ツールは何分くらいキッティングの時間を縮めてくれるのか検証してみました。各ステップにかかる時間については、設定環境、設定項目、設定者の習熟度などによって様々なため、ぴったり正確な数字は出せませんが、「ツールを何も使用しない場合から比べて、各ツールを使うとどの工程が何分程度短縮されるか」という相対的な比較を示してみたのが、以下の表になります。

	※時間は、あくまでも一例です	何も使用しない	MDM	DEP	Apple Configurator	VPP
1	セットアップ アシスタント	3分	-	2分 -30%	2分 -30%	-
2	端末設定	10分	0分 -100%		5分 -50%	-
3	構成プロファイル設定	5分	0分 -100%		3分 -30%	-
4	Apple ID 取得、設定	10分	-	-	-	0分 -100%
5	アプリケーションの インストール	10分	5分 -50%		-	3分 -66%
6	MDM 設定	5分	-	1分 -80%	-	-

表：iPad/iPhone 1 台あたりにかかるキッティング時間

表の見方…使用するツールが複数の場合は、そのうち時間が短い方が適用される。

### 【キッティング・トータル時間例】

何もツールを使用しない場合：43分（すべて手作業で設定）

Apple Configurator と MDM を使用した場合：22分（端末設定は短縮されるが、Apple ID の取得と MDM 設定が手作業になりネック）

Apple Configurator と VPP を使用した場合：13分（Apple ID 取得の手間が省けるが、USB ケーブルで Mac に接続して端末を設定しなければいけない）

DEP、MDM と VPP を使用した場合：6分（最初のセットアップ作業のみで完結する）

ご覧のように、DEP と VPP を併用するキッティングが一番時短できることが分かりました。もちろんキッティングの設定項目は様々で、利用するデバイスや環境によっても大きく左右されますので、上記はあくまでも目安になります。何台も設定していると、なかにはうまく処理が進まないものも当然あります。

## 各ステップの補足説明

- DEP を利用するとセットアップアシスタントの完了後、すぐ6のMDM設定処理が自動で走ります。OK ボタンを一回押すだけですが、ネットワークの状態によってMDMプロファイルのインストール完了まで多少タイムラグが生じます。
- 端末設定、構成プロファイル設定は端末に手動で一つ一つ設定すると、15分程度でした。MDMを利用すれば6のMDM設定で全て適用されるので0分、MDMを利用しない場合も、Apple Configuratorであればテンプレートの適用で一括設定できるので、時間は半減となりました。
- アプリについては、容量が比較的少ない（100MBを超過しない）ものを5種類インストールする場合で計測してみました。何もツールを使用しないと、Appストアから該当のアプリを検索し、Apple IDとパスワードを入力してダウンロードが完了するまで、1アプリ平均2分（4G回線を使用）といったところでした。MDMで配信すると、アプリのインストールがプッシュ通知されるためAppストアにアクセスする時間は不要になります。しかしプッシュ通知のたびにApple IDのパスワードを入力しないといけません。結果として1アプリ1分程度まで短縮されました。VPPを利用していればアプリのダウンロードやインストール時にいちいちApple IDとパスワードの入力が求められず、MDMの適用とともにサイレントで自動インストールが実行されます。5種類のアプリで、わずか3分まで短縮されました。ネットワーク速度に大きく影響されるので、あくまでも目安で捉えてください。

## 4. DEPを契約するには

### DEPの準備

ここまでDEPを使うとキittingが大幅に短縮される、ということを見ていきましたが、ここからは実際にDEPを契約するためのプロセスを見ていきましょう。DEPはApple社が提供するサービスプログラムですので、まず導入企業がDEPに申し込むことが必要です。[Apple Deployment Program](#)から申し込みを行ってください。詳しくはAppleのガイドをご覧ください。その際、企業のD-U-N-S® Numberの確認が必須となります。



これはD&B社が提供している9桁の企業識別コードのことで、世界の企業を一意に識別できるコードです。コードを確認するには東京商工リサーチ社のWEBサイトより自社の企業名を検索することで入手することが可能です。また、企業の専用Apple IDを取得するための代表メールアドレスの準備も必要です。

DEP を適用する端末は、DEP に対応している販売代理店から購入するか、Apple Store から法人として購入している必要があります。登録できる端末（新規 / 既存などの販売形態）は、販売店により異なります。2017 年 12 月現在、日本国内で DEP に対応している販売店は Docomo、KDDI、Softbank の携帯電話キャリアのみです。

## DEPページとMDMサーバ上での登録作業

DEP 登録と端末の手配が完了したら、Apple の DEP ページにおいて、契約している MDM を DEP に紐付けなくてはなりません。（端末の情報を DEP に登録するのは販売店の担当者が行います。）その際に証明書とトークンの取得が必要になりますが、詳しい方法は MDM サービス毎に異なりますので、MDM のガイドラインに従って登録ください。

MDM が登録されたら、DEP に登録された iOS デバイスの情報をその MDM に関連付けます。シリアル番号、注文番号または CSV ファイルのアップロードによる割り当てが可能です。これで DEP、MDM、デバイスが連携され、デバイスは電源を入れた後のアクティベーション時（セットアップアシスタント実行後）に DEP を参照し、自動で MDM から設定が適用されるようになります。

## 5. DEP導入時の落とし穴

このように、大変便利で強力な管理機能を持つ DEP ですが、当然注意しなければいけない点もあります。ここでは落とし穴になるポイントを 4 点ほど紹介しましょう。

### 1. 端末のDEP登録は初回1回のみ、1つの企業でのみ有効

一度 DEP に登録した端末はその企業の DEP にしか使えなくなるため、他の企業の DEP では使うことができなくなります。また、端末を DEP 登録から解除すると、そのデバイスは（自企業含め）永久に DEP に再登録できなくなります。



### 2. 端末の購入ルートが限られる

現状、Apple から直接購入した端末か、国内 3 大キャリアから手配した端末でしか DEP 登録できないため、デバイスの購入ルートが限られます。これまでレンタルやリースで導入していた企業にとっては端末の手配方法まで変更することが必要です。

この理由により、既存に配布済みの iPhone や iPad に対し DEP を導入する場合は、必ずしも既存の端末を全台 DEP 登録できるとは限らないので注意が必要です。

### 3. DEP適用のタイミングは端末のセットアップ時のみ

端末を DEP 管理下に配置するトリガーは端末のセットアップアシスタンス実行時しかありません。再起動や電源の OFF/ON では作動しません。つまり既存に使用している端末を新たに DEP で管理しようとした場合、必ず端末を初期化しなければいけないのです。その場合、データのバックアップ〜リストア方法も考慮する必要があるでしょう。

### 4. キットングが不要になってもサポートコストが不要になったわけではない

DEP 導入により、外部委託していた 1 台あたり数千円のキットングコストがまるまる削減されると単純に考えてはいけません。キットングは自動化されるかもしれませんが、DEP サイトや MDM サーバの管理作業には人の手が必要ですし、端末アクティベーション時のトラブルや、不慣れなユーザーが操作した際のトラブルも十分発生しますので、サポートのためのコストを考慮する必要があります。

## おわりに

確実に端末を MDM 配下で管理でき、VPP との組み合わせでキットングのプロセスも劇的に短縮できる DEP は、管理者の目線で見ると、魅力的なポイントが多いと感じるのではないのでしょうか？

新規の導入はもちろん、現在 iOS デバイスを導入している企業でも、既に配布済デバイスの問題などこれまでの運用フローやポリシーなどを見直す必要がでてくるかもしれません。管理者・利用者ともに負担軽減やメリットにつながる可能性が高いといえそうです。

iPhone や iPad でも重要な基幹業務を実現できる環境が発達した現在、スマートデバイスのセキュアな運用管理はコンプライアンスにも影響を与える重要な課題です。

まとまった台数の iOS デバイスを導入し業務利用する際には、ぜひ DEP を含めた運用の検討をおすすめします。

**【免責条項】**

この文書に記載されている情報は、予告なく変更または更新される場合があります、アステリアによる誓約として解釈されるべきものではありません。  
また、この文書の内容は、執筆時点での情報提供を唯一の目的とするものであり、マテリアルやコード、機能を提供することを確約するものではありませんし、あくまで参考情報とさせていただきますこと、ご了承ください。  
なお、この文書に記載された各会社名、各製品名などは、各社の商標または登録商標です。

[お問合せ先]

**アステリア株式会社**

Mail : [handbook@asteria.com](mailto:handbook@asteria.com)

URL : <https://handbook.jp/>